

令和7年度 普及活動成果集

「発信！発進！発心！」元気な担い手 産地の魅力



福岡県北筑前普及指導センター

令和8年3月

はじめに

令和7年度は、8月9日から12日にかけて福岡県北部沿岸部を中心に記録的な大雨に見舞われ、宗像市、福津市をはじめ各地で土砂崩れや浸水、冠水が発生し、農作物や農業施設にも大きな被害を受けました。このほか、農業・農村を取り巻く情勢を見ますと、気候変動への対応に加え、担い手の育成・確保や資材費等の高騰・高止まり、鳥獣被害への対応など、対応すべき課題が山積しています。

このため、北筑前普及指導センターでは、福岡県農林水産振興基本計画に示す振興方向に沿った普及課題を設定して計画的な活動を展開しております。とりわけ夏季の高温への対策や省力化技術の導入、農業経営の強化などを支援するため、講習会・研修会の開催や個別の巡回指導を積極的に行って地域農業の課題解決に取り組んでまいりました。

本冊子では、この1年間の活動内容やトピックなどを紹介しております。ご覧いただいてのご感想やご要望などお寄せいただければ幸いです。

また、これらの活動においては、市町・JA等の関係機関、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザー及び各生産部会等のリーダーをはじめ、多くの方々にご協力をいただいております。心より感謝申し上げます。

今後とも、普及指導センターでは「元気な担い手づくり」を活動の中心に置き、職員一丸となって、農業経営の発展と地域農業の振興に取り組んでまいりますので、引き続き普及活動へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和8年3月

福岡農林事務所北筑前普及指導センター
センター長 日高 達也

○ 表紙写真紹介

- 1 段目 < 女性農村アドバイザー視察研修会 > < JA 粕屋キウイフルーツ部会剪定講習会 >
- 2 段目 < 麦排水カッター実証試験 > < JA 粕屋いちご部会現地講習会 >
- 3 段目 < JAむなかた苺部会栽培講習会 > < 水稻の追肥試験調査 >
- 4 段目 < JAむなかたトルコギキョウ現地検討会 > < 営農基礎講座(農作業安全) >

目次

1 普及活動の成果

(1)	むなかた地域における新規就農者の経営確立と持続可能な生産の維持	1
(2)	地域農業を支える女性農業者の育成	3
(3)	水田農業の担い手育成および経営力強化	4
(4)	イチゴの収量向上と新規生産者の早期技術習得	5
(5)	露地野菜の持続的な生産	6
(6)	ジョイント栽培導入によるスモモ産地の活性化	7
(7)	新たな担い手の確保と夏季高温対策による持続可能な花き産地の育成	8

2 トピックス(注目の活動・技術および管内の各種表彰農家紹介)

(1)	営農基礎講座(全4回)を開催	9
(2)	北筑前アグリネットの活動	9
(3)	農業用ドローンを活用した水稻の湛水直播を支援	10
(4)	「イネカメムシ」の防除指導研修会を開催	10
(5)	イチゴ育苗期における高温対策技術の実証	11
(6)	農業用ドローンでキャベツの適期防除	11
(7)	JAむなかたぶどう研究会の活動が本格始動	12
(8)	トルコギキョウ栽培で高温対策試験を実施	12
(9)	令和6年度全国豆類経営改善共励会表彰 家族経営の部 全国農業協同組合中央会会長賞 (清水陽介氏)	13
(10)	令和7年度福岡県花き品評会「技術・ほ場の部(トルコギキョウ)」 県知事賞(中津留大氏)	13
(11)	令和7年度福岡県農業指導功労者表彰(落石秀行氏)	14
(12)	令和7年度ふくおか6次化商品セレクション県知事賞(アグリCATS株式会社)	14

3 参考資料

(1)	令和7年度 主な展示ほの概要	15
(2)	令和7年度普及指導センター活動情報一覧	16
(3)	令和7年産の生育状況	18
(4)	令和7年の気象状況	21
(5)	普及指導センターの所内体制	22

むなかた地域における新規就農者の 経営確立と持続可能な生産の維持

実施期間：令和5年度～令和7年度

むなかた地域の産地維持のためには、新規就農者の経営が早期に確立するよう継続的な支援が重要となっています。そのため、関係機関と情報共有を図り、新規就農者に対する重点的な巡回指導などの支援を実施しました。

また、むなかた地域の農地の地力が低下していることから、その対策として堆肥の施用を推進するために、実証試験に基づく施肥基準を作成しました。さらに、堆肥生産者及び関係機関と連携することで、随時堆肥を利用できる体制ができました。

対象の概況

新規就農者(就農5年目までの就農計画作成者)	12戸(3か年累計16戸)
土地利用型農家	
認定農業者のうち、土地利用型作物作付け者	107戸
認定農業者以外の露地野菜農家	16戸

活動の内容

(1)新規就農者の経営確立

・新規就農者のつどい	2回
・むなかた農業支援会議	4回
・サポート体制による会議	1回
・営農基礎講座	4回
・新規就農者への定期個別巡回	平均6回/戸
・サポート体制による巡回	2回/戸
・「あまおう」及び果樹の匠との研修会	2回
・「あまおう」重点個別巡回	平均7回/戸



営農基礎講座

(2)持続可能な生産の維持

・堆肥利用・供給体制の検討	2回
・実証ほの設置	3か所
・堆肥等利用検討会	4回
・堆肥供給者への個別巡回	5回
・施肥基準作成会議	1回



堆肥等利用検討会

(1)新規就農者の経営確立

- ・就農5年目までの新規就農者の就農計画は、12名中10名(約83%)が目標を達成しました。また、3か年累計で16名中13名(約81%)が目標を達成しました。
- ・新規就農者の多くを占めるイチゴ生産者に対して、熟練生産者「あまおう」の匠による指導や個別巡回などを行い、「あまおう」の基準収量(3,900kg/10a)を累計で10名中4名が達成しました。



(2)持続可能な生産の維持

- ・堆肥生産者、宗像市などとともに、堆肥の利用を促進するための会議を行い、料金の設定や堆肥利用チラシの作成などを支援しました。
- ・実証ほの成績をもとに、堆肥を活用するため施肥基準を6品目(水稻、麦、大豆、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー)について作成し、JA主要部会等で配布しました。
- ・堆肥利用農家数は64戸となり、前年より19戸、3年間で40戸増加し、堆肥の利用が広がりました。



堆肥生産者が提供する散布サービス



堆肥利用実証ほ(カリフラワー)

今後の取り組み

イチゴの新規就農者の経営確立については、目標未達成の農家の個別課題を整理し、関係機関と連携した技術指導を重点的に実施し、早期に経営が安定するよう継続支援します。

また、堆肥を活用した施肥基準を水稻、麦、大豆や露地野菜のJA生産部会などに提供し、引き続き堆肥の利用が促進されるよう支援します。

地域農業を支える女性農業者の育成

実施期間：令和7年度～令和9年度

地域農業や農村を支える女性農業者の活躍を推進するため、女性農村アドバイザーや女性農業者組織の資質向上に向けた研修会等の活動を支援しました。また、将来の地域を支える新たな女性農業者の掘り起こしを行いました。更に、女性農業者の経営参画を推進するため、経営計画策定を支援しました。

対象の概況

女性農村アドバイザー	6名
北筑前女性農村アドバイザー協議会	32名
北筑前地区農村女性グループ連絡研究会	19名
認定新規就農者及び配偶者 (R1年度～R6年度)	6名
JAむなかた柑橘部会女性部	7名

成果

(1)女性農業者の活躍推進

・女性農村アドバイザーや女性農業者組織の資質向上研修(講演・視察)を支援しました。また、営農基礎講座等への呼びかけにより新たに3名の女性がリストアップされました。

(2)女性農業者の経営参画推進

・女性農業者を対象に実演形式で経営分析手法の勉強会を開催し、経営計画作成のスキル向上を支援したことで、2名が経営計画を策定しました。

経営計画策定者数 2名



経営分析手法の勉強会

活動の内容

(1)女性農業者の活躍推進

- ・女性農業者の掘り起こし
担い手支援会議等で女性農業者の情報収集 3回
直売所聞き取り調査 5回
- ・資質向上研修の実施等
女性農村アドバイザー先進地視察 1回
北筑前女性農村アドバイザー研修会 1回
北筑前地区農村女性グループ研修会 3回

(2)女性農業者の経営参画推進

- 経営勉強会 1回
- 経営計画策定検討会 3回



資質向上研修



先進地視察

今後の取り組み

女性農業者の活躍を推進するため資質向上に資する研修会や視察等の活動を支援するとともに、次代を担う人材発掘を併せて行います。また、経営計画策定と実践の支援により、更なる活躍を推進します。

水田農業の担い手育成および経営力強化

実施期間：令和6年度～令和8年度

若手の経営体は、今後の地域農業を維持するうえで重要な担い手ですが、規模拡大にあたって省力化や低コスト化、収量の安定化などが課題です。そこで、各課題に応じた個別支援を行い経営改善を図りました。

また、飼料用米は、水稻生産者にとって経営を安定させるための重要な品目です。しかし、地域標準単収に達していない生産者が半数程度を占めており、単収向上が課題となっていました。そこで、肥料試験ほの設置や水管理に重点を置いた管理指導などを実施しました。

対象の概況

若手の個別経営体	10経営体
飼料用米(ミズホチカラ)生産者	55経営体

活動の内容

(1)担い手の育成

- ・個別経営体経営改善支援 3経営体×3回
(経営改善支援内容)
 - ①水稻育苗および移植作業の省力・低コスト化支援
 - ②水稻栽培の低コスト化支援
 - ③個別経営体から法人への経営発展支援

- ・スマート農業活用支援 5回
- ・省力・低コスト化技術実証ほ 3経営体×1回

(2)経営力の強化

- (飼料用米)
 - ・現地検討会 3地区×1回
 - ・展示ほ設置 1カ所
 - ・栽培管理情報の提供 4回

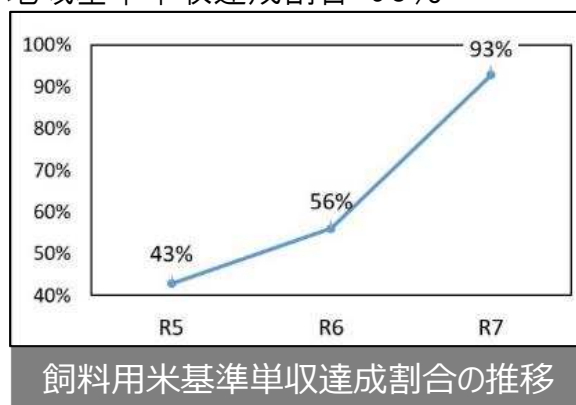
成 果

(1)担い手の育成

経営改善経営体数
省力化、低コスト化、収量性改善:2経営体
法人設立:1経営体

(2)経営力の強化

飼料用米
地域基準単収達成割合:93%



今後の取り組み

担い手の育成は、個別の改題解決に向けて、飼料用米は収量の高位安定に向けて、継続して支援します。

イチゴの収量向上と新規生産者の 早期技術習得

実施期間：令和5年度～令和7年度

イチゴ生産における収量減の要因として、「年内管理期」と「親株期」の適期栽培管理が挙げられます。そこで、部会平均収量未達成者を対象に、講習会や栽培管理のポイントとなる時期に現地巡回を行いました。

また、新規生産者を対象に、スマートグラス(ICT機器)を用いた「あまおうの匠」の遠隔指導による研修会や、育苗時期における高温対策として先進事例調査を行い、早期の技術習得が図られました。

対象の概況

JAむなかた苺部会、JA粕屋いちご部会

(1)収量向上支援

・平均収量未達成者 13名

※各部会平均収量未達成者(過去5年間)。
但し、就農5年未満は除く。

(2)早期技術習得支援

・要支援新規生産者 11名

※各部会平均収量未達成者(過去5年間)のうち、
就農5年未満の生産者。

成 果

(1)収量向上支援

・10%増収者数:4名

(2)早期技術習得支援

・平均収量達成者数:2名



先進事例調査（佐賀県白石町）

活動の内容

(1)収量向上支援

・講習会・現地検討会	各5回
・時期別現地巡回	各5回
・残留基準値一覧表の作成	1回
・病虫害発生状況調査	4回
・病虫害だよりの発行	4回

(2)早期技術習得支援

・現地互評会	各2回
・先進事例調査	各1回
・ICT機器研修会(あまおうの匠事業)	各2回



ICT機器研修会(あまおうの匠事業)

今後の取り組み

これまでの取組に加え、近年増加傾向である炭疽病について、適期防除や秋ランナーの利用の推進、また、高温対策を含めた2番果房花芽分化対策の徹底を図り、収量向上を目指します。

新規生産者については、生産者ごとの課題や目標を整理し、生産者に沿った支援を行うとともに、産地の中心的な担い手を育成していきます。

露地野菜の持続的な生産

実施期間：令和5年度～令和7年度

当管内の露地野菜であるキャベツ、ブロッコリー、カリフラワーは県内で古くからの産地であり、農業振興上重要な品目です。しかし、近年の異常気象で、年内生産量の不安定化が問題となっています。また、露地野菜は冬春栽培が主体で、閑散期である初夏に収入が減少することも課題です。

そこで、異常気象に対応した技術導入や生産支援を行いました。また、閑散期の補完品目の導入を支援しました。

対象の概況

JAむなかた	
キャベツ部会	15戸
キャベツ加工部会	11戸
ブロッコリー部会	20戸
カリフラワー部会	17戸
JA粕屋ブロッコリー部会	17戸

活動の内容

(1)キャベツの生産安定

・担当者会議	2回
・作付検討会議	2回
・品種検討会	1回
・品種展示ほ	2か所

(2)ブロッコリー、カリフラワーの生産性向上

・担当者会議	2回
・品種検討会	3回
・施肥指導	3回
・品種展示ほ	2か所
・施肥展示ほ	1か所
・作業マニュアル作成	1回

(3)補完品目の導入と生産安定

・補完品目の導入検討会	3回
・栽培資料提供	3回
・現地巡回指導	3回

成果

(1)キャベツの生産安定

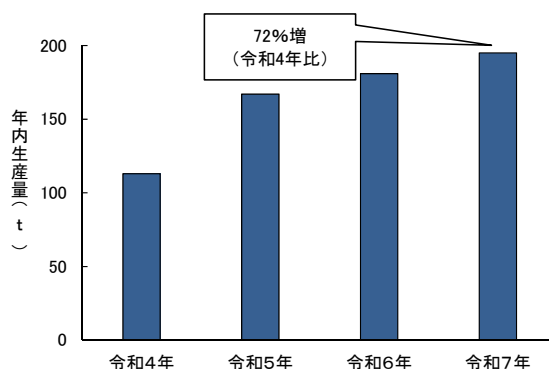
・年内生産量：R4年(基準)の172%達成

(2)ブロッコリー、カリフラワーの生産性向上

・有望品種：2品種選定(ブロッコリー)
・作業マニュアル：作成(カリフラワー)

(3)補完品目の導入と生産安定

・補完品目：3品目作付
(スイートコーン、長ネギ、サツマイモ)



加工キャベツの年内生産量

今後の取り組み

露地野菜の更なる安定生産を図るため、育苗方法の見直しやバイオスティミュラント資材を活用した夏季の高温対策を進めます。

加工キャベツについては、加工・業務用野菜の需要が高まり、多くの実需者に求められているため、安定生産技術を実践し、出荷量の向上や面積拡大を推進します。

ジョイント栽培導入によるスモモ産地の活性化

実施期間：令和5年度～令和7年度

管内では、カンキツの補完品目として、古くからスモモが栽培されています。ふくれんVFセンターを利用することで、パック詰め作業の省力化や単価の向上につながり、その結果、新規生産者が増加し、栽培面積も拡大しています。

そこで、さらなる産地の活性化を目指し、早期成園化と作業の省力化が可能な樹体ジョイント仕立て法の導入を支援しました。

対象の概況

JA粕屋すもも研究会	
研究会員数	16戸
栽培面積	3.2ha
JAむなかたすもも部会	
部会員数	4戸
栽培面積	1.2ha

成 果

(1) 生産者の育成と安定生産

・ジョイント栽培
導入生産者数 R4:10戸→R7:10戸
栽培面積 R4:118a→R7:136a



ジョイント栽培現地検討会

活動の内容

(1) 生産者の育成と安定生産

- ・ジョイント栽培現地検討会 (新梢管理、せん定) 2回
- ・ジョイント栽培導入者への時期別現地巡回 (宗像、粕屋) 2地区×2回
- ・展示ほ設置 2ヶ所
- ・スモモ栽培管理講習会 2回



はくひ
環状剥皮による更新枝
発生促進に関する展示ほ

今後の取り組み

ジョイント栽培を推進するため、結実安定化につながる環状剥皮による更新枝確保技術など、栽培管理手法の確立を引き続き目指します。また、出荷量確保に向けて、人工授粉の適切な時期・方法に関する検討を行い、生産者への推進を図ります。

新たな担い手の確保と夏季高温対策による 持続可能な花き産地の育成

実施期間：令和7年度～令和9年度

管内花き主要品目であるトルコギキョウとユーカリの産地維持のため、新規栽培者の確保とその定着を支援するとともに、夏季の高温対策として、ハウス遮光資材の現地実証や新品目の導入を支援しました。

対象の概況

JAむなかた花き部会 生産者 15戸
 (うちトルコギキョウ生産者 4戸)
 (うち ユーカリ生産者 5戸)
 (うち バラ生産者 1戸)

活動の内容

(1)新規栽培者確保

- | | |
|---------------|----|
| ・新規者向けチラシの作成 | 作成 |
| ・現地トレーナー農家の検討 | 1回 |
| ・推進品目・方法の検討 | 7回 |
| ・労働力確保ツールの推進 | 2回 |
| ・規模拡大農家へのコンサル | 7回 |



就農説明会ブース出席



新規者募集チラシ

(2)夏季高温対策

- | | |
|--------------------|--------|
| ・高温対策技術試験(トルコ) | 3か所 |
| ・品種検討会(トルコ、バラ) | 各1回 |
| ・個別指導(トルコ、バラ、ユーカリ) | 2回以上/戸 |
| ・新品目栽培支援 | 7回 |
| ・実需者との情報交換 | 2回 |



トルコギキョウ遮光資材実証ほ



トルコギキョウ品種検討会

成果

(1)新規栽培者確保

- ・新規栽培者(常雇用) 1名(トルコギキョウ)
- ・現地トレーナー農家 1名(トルコギキョウ)

(2)夏季高温対策

- ・6～9月共販出荷本数
 R6:29万9千本 ⇒ R7:33万1千本
 (昨年比11%増)



トルコギキョウ遮光資材ドローン散布試験

・新規夏季品目

R7:1品目(アマランサス)



アマランサス実証ほ

今後の取り組み

新規栽培者確保に向けて、作業マニュアルや募集チラシ作成を実施する他、夏季高温対策として、技術試験や新規品目の導入支援により、花き産地の維持に取り組めます。

2 トピックス(注目の活動・技術の紹介)

No.1

営農基礎講座（全4回）を開催

地域振興課 地域係

普及センターでは毎年、新規就農3年目までの農業者等を対象とした営農基礎講座(全4回)を開催しています。令和7年度は、7月9日に「病虫害と農薬の基礎」、9月3日に「土づくりの基礎」、10月8日に「経営管理の基礎」、12月17日に「農作業安全」を開催し、延べ28名が参加しました。

第1回から第3回は普及指導センター職員が講師を務め、病虫害の種類および農薬使用に関するルール、肥料の種類や特徴および土壌分析結果の見方、作業日誌の重要性や青色申告のメリットなどについて説明を行いました。第4回はセンター職員からの農作業事故の発生要因や農作業中の熱中症対策の説明に加え、(株)福岡九州クボタと(株)丸山製作所の担当者を招き、管理機および刈払い機の安全使用について実演を交えて説明を行っていただきました。



職員による説明



管理機の実演

No.2

北筑前アグリネットの活動

地域振興課 地域係

北筑前アグリネット(北筑前農業士・女性農村アドバイザー連絡協議会)は、指導農業士、青年農業士、女性農村アドバイザーの現役及びOBで構成され、会員お互いが自己研鑽に努め連携をとりながら、地域農業の発展に資することを目的に活動しています。

本年度の研修会は、会員に加え4Hクラブ員まで広く参加を呼びかけ実施しました。10月の視察研修会では、福岡市の青年農業士が経営されている観光イチゴ園を訪問し、観光農園の経営や集客力アップの方法、イチゴ栽培技術などを研修しました。また、2月の農業経営研修会では、トヨタ自動車(株)の現場改善グループの方を招き、①農作業現場の無駄をなくす、②効率的な作業動線、③作業計画書、④雇用者の作業手順書などを通じた農業経営の改善を図る方法について研修を行いました。



観光イチゴ園視察



農業経営研修会

No.3

農業用ドローンを活用した水稻の湛水直播を支援

地域振興課 水田農業係

福津市の大規模土地利用型農家を対象に、農業用ドローンを活用した水稻の湛水直播について、種子コーティングから播種までの一連の技術支援を行いました。

湛水直播は、種子を代かき後の水田に直接播種する技術で、育苗や田植え作業が不要となり、コスト削減や作業の分散が期待できます。今回、種子のコーティングには、種子の比重を高め湛水状態でも浮きにくく、表面が硬くスズメ等による食害軽減効果が期待できる鉄粉を用いました。鉄粉のコーティング種子は、長期保存が可能で、農閑期に準備できるという利点もあります。

播種当日は、近隣の生産者や関係機関など多くの方が見学に訪れ、「作業の省力化のため、今後の参考にしたい。」といった声が聞かれるなど、今回の試験への関心の高さが伺えました。



種子コーティング作業とコーティングした種もみ



ドローンによる播種

No.4

「イネカメムシ」の防除指導研修会を開催

地域振興課 水田農業係

近年、水稻害虫「イネカメムシ」の発生が、特に県北地域で問題となっています。出穂期以降に被害にあうと、粒が実らなかったり、吸汁の痕が残る「斑点米」という被害粒が発生したりと、収量・品質に悪影響を及ぼします。このため、令和7年産米における防除対策指導の徹底に向けて、管内2JAの営農担当と普及指導センター水田農業係の合同で、防除対策研修会を開催しました。

研修は、農林業総合試験場病害虫部より講師を迎え、「イネカメムシ」の生態や県内の発生状況、防除適期や有効農薬などの最新情報について、詳しく説明を受けました。これにより、生産者への指導の際に有効な情報を指導者間で共有することができました。



研修の様子



研修資料の一部抜粋

No.5

イチゴ育苗期における高温対策技術の実証

園芸課 野菜係

近年、イチゴ育苗期（6～9月）の高温により、生育不良や花芽分化の遅延が発生し、健全な定植苗の確保や高単価時期である年内出荷が困難になっています。

そこで普及指導センターは、JAむなかた苺部会の青年部と協力し、育苗期の高温対策技術として紙ポットの試験を実施しました。試験の結果、紙ポットは黒ポリポットよりも地温が5～10℃低かったことから、根傷みなどの生育不良の改善や花芽分化の遅延解消が見込まれることが分かりました。一方で、紙ポットは慣行の黒ポリポットより必要なかん水量や施肥量が多くなることから、より適切な栽培管理を検討していく必要があります。



各ポット(紙,白,黒)の根張りの様子

※7月25日撮影

No.6

農業用ドローンでキャベツの適期防除

園芸課 野菜係

令和7年12月に、JAむなかた及びキャベツ生産者の協力の元、農業用ドローンによるキャベツの農薬散布試験を実施しました。

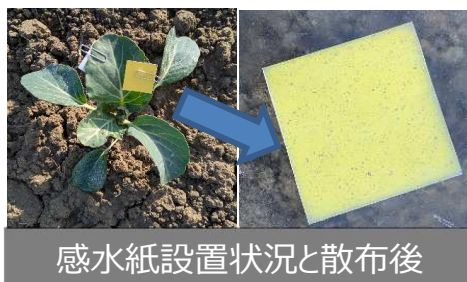
JAむなかたでは、本年度からドローンを整備し、農薬や肥料の散布を行う作業受託サービスを開始しています。キャベツなどの露地野菜では、定植時期が集中するため、定植後の防除遅れが課題となっていますが、これを活用することで、適期防除が可能となります。

そこで、普及センターは、ドローンによる農薬散布の時間と薬液の付着状況について調査を行いました。作業時間はブームスプレーヤーと比較して約1/4に短縮でき、薬液はキャベツの葉裏まで付着することが確認できました。生産者からは「短時間で広範囲のほ場を防除してもらえる」「降雨後にブームスプレーヤーが入れない場合も適期防除できる」と、高い評価を得ています。

普及指導センターは、今後もJA及び部会と連携し、キャベツの生産性向上に向けて支援を続けていきます。



ドローンによる防除



感水紙設置状況と散布後

JAむなかたぶどう研究会の活動が本格始動

園芸課 果樹花き係

JAむなかた管内では、ハウスを所有している野菜・花き農家を中心に、ぶどうの新規栽培者が増加しています。ぶどうを新たな共販品目とするため、JAむなかたぶどう研究会(会員11名)が発足し、令和7年度から本格的な活動が始まりました。

今年度の研究会活動は、4月の春季管理講習会から始まり、現地巡回や試食会など、合計4回実施されました。初めて房作りを行う生産者も多く、普及指導センターの担当者が実演を行いながら、基礎技術の早期習得を支援しました。また、熟練生産者「果樹の匠」の技術を新規栽培者へ効率的・効果的に伝承するため、アイカメラを用いて「果樹の匠」による房作り指導動画の作成にも取り組みました。

普及指導センターでは、今後もぶどうの共販体制の確立に向け、栽培技術の向上および高品質果実の安定生産を支援していきます。



栽培管理講習会



「果樹の匠」による指導動画作成

トルコギキョウ栽培で高温対策試験を実施

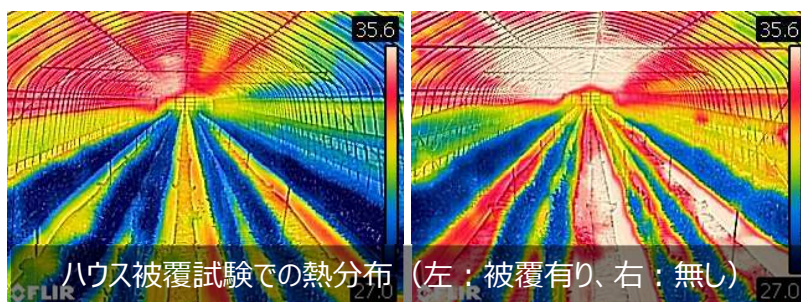
園芸課 果樹花き係

JAむなかた管内では、秋出しトルコギキョウの短茎開花等の夏季の高温による品質低下が課題となっています。

そのため、令和7年8月～10月にかけて、施設内温度を上昇させる近赤外線をカットする機能を持った、遮熱ネットによるハウス被覆試験と、塗布型遮光剤のドローン散布試験の2試験を実施し、ハウス内の昇温抑制効果を検証しました。その結果、どちらの試験でも、日中のハウス内気温は無処理に比べて低下することが確認されるとともに、トルコギキョウの生育にも影響は見られませんでした。生産者からも、ハウス内が涼しいと体感できる、と高い評価を受けました。

トルコギキョウは品種によって性質が様々であるため、今後も生育への影響を検討する必要がありますが、これらの資材を栽培体系に組み込めれば、安定生産と労働環境改善の両方に効果が期待されます。

普及指導センターでは今後も、新たな栽培技術の確立と推進を図り、夏季の安定生産を支援していきます。



ハウス被覆試験での熱分布 (左：被覆有り、右：無し)

**表彰名：令和6年度 全国豆類経営改善共励会表彰 家族経営の部
全国農業協同組合中央会会長賞**
受賞者：清水 陽介 氏（宗像市）

宗像市の清水陽介氏が、令和6年度福岡県大豆作経営改善共進会（農家の部）において「最優秀賞（福岡県知事賞）」を受賞され、九州ブロック代表として推薦された全国豆類経営改善共励会において、「全国農業協同組合中央会会長賞」を受賞されました。

清水氏は、常時雇用1名を含めた家族経営で、水稻・麦・大豆および加工キャベツとの複合経営を行っています。令和6年は、水稻約15ha、麦約18ha、キャベツ約4haおよび大豆約3haを作付け、省力・低コスト化による安定生産を図るとともに、地域活動への参加も積極的に行っています。

大豆作において、直近の3か年平均で10a当たり158kg（県平均138kg）と高収量・安定生産が評価されました。主な特徴として、部分浅耕—工程播種技術の導入による播種時の過乾湿対策が行われています。また、徹底した雑草防除を心がけ、細やかな管理による安定生産に努められています。



6月27日の共励会表彰式にて



清水 陽介氏（左）

**表彰名：令和7年度福岡県花き品評会
「技術・ほ場の部（トルコギキョウ）」**
受賞者：中津留 大 氏（福津市）

福岡県知事賞 受賞

花あふれるふくおか推進協議会が主催する「令和7年度福岡県花き品評会技術・ほ場の部（トルコギキョウ）」において、JAむなかた花き部会長の中津留大氏が2年連続で「福岡県知事賞」を受賞しました。

中津留氏は、JAむなかた花き部会の主力品種であるトルコギキョウ「ボンマリン」をはじめ、中小輪系品種を中心に栽培しています。今回受賞された「ピンクフィズ」も含む中小輪系品種は、芽摘みに多くの時間を要しますが、雇用導入とこまめな手入れにより、高品質なトルコギキョウ生産を実現されています。これらの取り組みが高く評価され、今回の表彰につながりました。

次年度は規模拡大を予定されており、管内の花き産地を牽引する生産者として、さらなる活躍が期待されます。



中津留 大氏



受賞した品種「ピンクフィズ」

表彰名：令和7年度福岡県農業指導功労者表彰

受賞者：落石 秀行氏（新宮町）

令和7年度福岡県農業指導功労者表彰を新宮町のイチゴ生産者・落石秀行氏が受賞されました。

落石氏は、イチゴ栽培に45年間取り組まれ、この間、青年農業士として9年間、指導農業士として13年間活動され、就農希望者、新規就農者、若手農業者の技術指導や相談対応を行うなど地域の指導者として長年活動してこられました。また、JA粕屋いちご部会では、部会長、副部会長として部会員をけん引し、産地強化に努めてこられました。これらの取り組みが高く評価され、この度の受賞となりました。

現在は、「あまおう」の匠として、イチゴ栽培の技術伝承を行い、他部会との交流を進めているだけでなく、地元小学校での出前講座や食育活動を積極的に行い、農業の魅力を次世代に伝える取組にも尽力されています。



落石 秀行氏（右）

表彰名：令和7年度ふくおか6次化商品セレクション 福岡県知事賞

受賞商品：「玄米カレードリア・ミートソースラザニア」

受賞者：アグリCATS株式会社（宗像市）

アグリCATS株式会社（宗像市吉田 代表：岩佐洋一氏）が製造・販売する「玄米カレードリア・ミートソースラザニア」が、令和7年度ふくおか6次化商品セレクションにおいて福岡県知事賞を受賞しました。

同社は、平成13年から自家製の無農薬野菜を素材とする農産物販売を、17年からは農家レストランも始められ、消費者との交流・飲食の場を提供しています。

受賞商品は、自家製野菜をたっぷり使ったレストランのメニューを、令和3年から無添加の冷凍食品として、直売施設などで販売を開始しました。自家製の原料にこだわり、野菜だけでなく、小麦粉、玄米、平飼い地鶏の鶏肉・鶏卵などの生産から加工までを内製化しています。これらの取組、無農薬農産物へのこだわり、それを消費者に届けるという熱い思いが詰まった商品が高く評価されました。



受賞商品



アグリCATS 岩佐政子氏

3 参考資料

(1) 令和7年度主な展示ほの概要

対象作物	課題名	市町村	展示ほの目的・概要
小麦	硬質小麦新品種「ちくしW43号」の現地適応性の検討	福津市	硬質小麦新品種「ちくしW43号」は「ちくしW2号」からの品種転換が計画されており、「ちくしW43号」の現地適応性を確認することを目的とし、品種比較試験を行った。 「ちくしW43号」は「ちくしW2号」に比べ、稈長は短く、穂長は長く、穂数は多く、収量は同等であった。また、タンパク質含量は両品種ともに12%以上であった。
イチゴ	遮光資材の被覆によるイチゴ2番花房の花芽分化促進効果の検討	福津市	軽量で作業しやすい被覆資材について、2番花房の花芽分化促進効果及び作業性について検討した。資材は、白色の遮光率45%及び銀色の遮光率45%の2種類を供試した。 2番花房の花芽分化促進については、12月中旬時点で2種とも概ね出蕾しており、一定の効果があつたと考えられた。課題であつた作業面については、生産者からは軽量で作業しやすいという評価が得られた。
露地野菜	加工キャベツ、ブロッコリーにおける品種比較試験	宗像市 福津市 古賀市	加工用に適する肥大性及び在圃性に優れるキャベツ品種や、高温時期でも品質及び収量性に優れるブロッコリー品種を導入するために品種比較試験を実施した。 慣行品種に比べ、肥大性に優れるキャベツを1品種、品質に優れるブロッコリーを1品種選抜した。
スイートコーン	基肥一発肥料を用いたスイートコーンの省力化栽培の検討	古賀市	管内では追肥を行う体系が一般的であるスイートコーンについて、基肥一発肥料が生育に及ぼす影響を調査した。 基肥一発肥料体系は追肥作業を省力化することができ、慣行追肥体系に比べ、草高が高くなったが、収穫物の雌穂重がやや小さくなった。また、10aあたりの経費については、約2万円の増となった。
カンキツ	「早味かん」における着果条件が日焼け果の発生に及ぼす影響	宗像市	日焼け果が発生しやすい「早味かん」について、果実・結果枝・側枝の条件が日焼け果の発生に及ぼす影響を調査した。 日焼け果の発生程度には、日照時間の長さが大きく影響することが明らかとなった。特に結果枝が上向きかつ基部が太い果実は、日焼け果の発生程度が激しかった。また、樹冠下部の強勢な側枝に着果している果実も、日焼けしやすい傾向がみられた。
切り花	夏季の高温に強い切り花新品目(アマランサス)の検討	福津市	高温環境に強いと言われるアマランサスの栽培試験を行い、新規切り花品目としての有望性を調査した。 4月下旬定植の作型では、草丈の伸長や開花は順調に進み、6月上旬～7月上旬に出荷できることが明らかとなったため、夏季の切り花品目として期待できる。

(2)令和7年度普及指導センター活動情報一覧

令和7年度に普及指導センターがホームページなどで広く提供した情報です。

No.	タイトル	担当係	発行日
1	芍薬部会現地検討会を開催	果樹花き係	5/13
2	北筑前地区農村女性グループ連絡研究会及び研修会を開催 ～「ことだま文字アート」でGood元気に～	地域係	5/20
3	健全な苗づくりを目指しイチゴ育苗講習会を開催	野菜係	6/11
4	水稻害虫「イネカメムシ」の防除指導研修会を開催	水田農業係	6/11
5	福津市で農業用ドローンを活用した水稻の湛水直播を支援	水田農業係	7/4
6	高温障害対策による水稻の品質向上に向けて	水田農業係	7/8
7	むなかた地域新規就農研修修了式が開催されました	地域係	7/14
8	大玉生産による収量向上を目指して ～JAむなかたキャベツ加工部会品種検討会を開催～	野菜係	7/14
9	ドローンによるバラ温室の遮光剤散布試験を実施	果樹花き係	7/24
10	令和7年度営農基礎講座開講！ ～新規就農者の早期経営確立を目指して～	地域係	7/18
11	JA粕屋軟弱野菜部会現地互評会が開催されました！	野菜係	8/8
12	むなかた地域の魅力ある農産物づくりを目指して！ ～宗像地区直販施設出荷者向け研修会を開催～	地域係	9/3
13	イチゴの年内の株づくりと安定出荷に向けて ～定植前講習会を実施しました～	野菜係	9/11
14	カンキツの安定生産に向けて ～カンキツの日焼け果対策試験の結果を報告～	果樹花き係	9/30
15	ユウカリ周年出荷と新規切り枝品目育成に向けて ～JAむなかた花木現地検討会を開催～	果樹花き係	10/30
16	スモモの収量向上に向けて ～ジョイント栽培における試験結果を報告～	果樹花き係	11/5
17	農業士・女性農村アドバイザーが先進観光いちご園経営を視察 ～「北筑前アグリネット」視察研修会～	地域係	11/18
18	女性農業者のさらなる経営力向上を目指して ～北筑前地区女性農村アドバイザー視察研修会を開催～	地域係	11/13
19	寒さに負けないイチゴの株づくりを目指して ～JA粕屋いちご部会現地講習会を開催～	野菜係	11/13
20	Do you know農業委員会？篠栗町農業委員会会長に聞きました！ ～北筑前地域農村女性グループ連絡研究会研修～	地域係	11/21

No.	タイトル	担当係	発行日
21	“排水カッター”で小麦の収量アップ ～畝間の亀裂施行による圃場の排水性改善の現地実証～	水田農業係	12/5
22	高品質出荷へ向けた取り組み進む ～JAむなかたブロッコリー部会出荷目合わせ会が開催～	野菜係	12/10
23	農業用ドローンで防除作業を効率化 ～キャベツの農薬散布試験を実施～	野菜係	12/25
24	管理機と刈払機の安全使用を実演で学ぶ ～第4回営農基礎講座「農作業安全」を開催～	地域係	1/13
25	切り花農家がトヨタ生産方式による現場改善を実施 ～収穫・調整作業の効率化を目指して～	果樹花き係	1/23
26	イチゴの春先管理と次年度の病虫害対策に向けて ～JAむなかた苺部会厳寒期講習会及び青年部意見交換会～	野菜係	2/2
27	トヨタ生産方式の整理・整頓で農作業の効率アップを学ぶ ～担い手・産地育成協議会、北筑前アグリネットが経営研修会 を共催～	地域係	2/24
28	「むなかたの柑橘の今後を考える会」を開催 ～リレー出荷体制の安定化に向けて～	果樹花き係	2/16

(3) 令和7年産の生育状況

(水稻・麦・大豆)

【水稻】

梅雨明けが早く、その後、高温、少雨で推移したため、早期水稻、普通期水稻ともに茎数は平年より多かった。

- ・8月9日～11日の大雨により、早期水稻では生育旺盛ほ場で倒伏、普通期水稻では海岸付近や低地ほ場で浸冠水が発生した。
- ・出穂期は、早期、普通期ともに平年並であった。
- ・成熟期は、早期、普通期ともに平年並であった。
- ・病虫害は8月9日の大雨による浸冠水で出穂後の「夢つくし」ほ場で、籾枯細菌病や内穎褐変病が発生した。また、スクミリンゴガイ、ミナミアオカメムシの発生が多くみられた。
- ・品質は、出穂後の浸冠水による不稔籾の発生、出穂後の高温の影響による白未熟粒の発生や充実不足、カメムシ類による斑点米の被害粒が多かった。
- ・収量は、平年より多かった。

【麦】

- ・播種は、11月中旬から始まり、11月下旬の降雨で播種が遅れ、1月初旬に終了した。
- ・生育は、大豆の収穫が遅れたことによる遅播きや気温の低下により前年より遅く、茎立ち時期も遅かった。
- ・出穂は、初期生育の遅れにより前年より遅かった。
- ・成熟期は、小麦・大麦ともに平年より遅かった。
- ・病害は、大豆後作大麦ほ場で網斑病の発生がみられた。
- ・収量は、前年より多かった。

【大豆】

- ・播種は、6月末から始まり、7月21日に終了した。
- ・出芽は、7月上旬の高温乾燥により出芽が不揃いで、一部ほ場では再播種が行われた。
- ・生育は、全体を通して順調であったが、8月9日～8月11日の大雨による浸冠水が全域に発生し、下葉枯れが発生したほ場が多くみられた。冠水の影響が小さかったほ場の生育は回復したが、長時間冠水したほ場は枯死し、すき込みが行われたほ場もあった。
- ・開花期は、平年並みであった。
- ・雑草は、大豆の生育不良ほ場や、防除が不十分なほ場で、アサガオ類、ホオズキ類、ヒユ類などの発生が多くみられた。
- ・病虫害は、10月中旬以降、吸実性カメムシ類の発生が多く、多発地域では、補正防除が行われた。
- ・収穫は11月11日から始まり12月10日まで行われた。カメムシ類等による青立被害が発生したほ場ではすき込みが行われた。
- ・品質は中粒の割合が高く、カメムシ類の被害粒の割合が平年より高い。

（野菜）

【イチゴ】

- ・ランナーの発生は、4月上旬まで続いた低温と乾燥傾向により平年よりやや遅く、一部で肥料切れとなった圃場も見られ、全体的に切離し時期が平年並み～やや遅くなった。
- ・育苗初期は、例年より大幅に早い梅雨明けからの高温で、生育は抑えられたものの、日照時間が確保され、徐々に回復した。8月9日からの豪雨で一部の圃場では苗浸水や流出等の被害が発生した。
- ・1番果房の花芽分化は早期作型では平年並み、普通ポットでは高温の影響で遅くなり、一部で定植が遅れた。
- ・10月中旬まで気温は例年を大きく上回り、早期作型では果実着色が早まったため、出荷開始が早まった。また、定植後からの炭疽病による枯死が一部で発生し、年内収量は平年より下回った。

【トマト】

- ・8月下旬から10月にかけて定植が行われ、全体的には昨年より1週間程度定植を遅らせた圃場が多かった。10月まで高温傾向が続き、定植を遅らせたものの、生育は前進化し、出荷開始は10月下旬と、平年並みであった。出荷出揃いは12月12日であった。
- ・病害虫の発生は、コナジラミ類、黄化葉巻病が発生した。
- ・市場出荷は11月13日となり、11月は高単価で推移した。

【キュウリ】

- ・8月上旬に定植が行われた。8月10日の大雨により一部ハウスに水が流入し、苗の流出や枯死が発生したため植替えが行われた。また、一部で高温による葉焼けや生育不良が見られた。
- ・植替えが多く、出荷開始は遅れることが予想されたものの、被害を受けなかった株の生育が順調に進み、平年よりやや早い9月8日出荷開始となった。
- ・本年度も天敵スワルスキーカブリダニを全戸で導入し、8月中旬から9月にかけて放飼し速やかに定着した。
- ・病害虫については、天敵の導入や育苗期の防除により、コナジラミ類の発生は抑えられた。8月下旬よりウリノメイガが多発したが、防除により大きな被害にはならなかった。その他、アブラムシやアザミウマ類の発生が見られた。また、昨年と比べ降雨が多く、9月下旬ごろからべと病が発生し、一部で褐斑病やうどんこ病の発生が見られた。
- ・共販出荷は平年よりやや遅い11月24日で終了した。

【露地野菜】

- ・播種は早いところで7月下旬から始まった。8月10日の大雨により一部圃場で苗の冠水や育苗ハウスへの水の流入があった。8月以降、育苗期の高温が続き、苗の徒長や生育不良株が発生した。
- ・8月下旬から9月上旬までの定植分で乾燥による枯死株が散見された。9月中旬以降は、高温であったものの、適度な降雨が定期的により、生育は順調であった。
- ・9月からシロイチモジヨトウが多発し、露地野菜全般で食害が散見された。10月中旬以降はカメムシ類が多発したが、異物混入の確認を各生産者が徹底し、大きなクレームにはつながらなかった。
- ・11月以降は降雨が少なく、過乾燥により生育が一部停滞し、12月収穫分を中心に生育遅れが発生した。
- ・昨年発生が多かった黒すす病やヒヨドリの食害については、非常に少なかった。

（果樹）

【カンキツ】

- ・2月は気温が低く推移し、3月は平年並みの気温であったが、発芽・開花期は、前年より4日程度遅くなった。
- ・着花量は、前年の着果量が少なかった影響で、極早生は並～やや多く、早生以降はやや多かった。
- ・秋季の降雨により、カタツムリ類が一部園地で多発した。また、一部園地でサビダニが多発したほか、カネタタキによる果実への食害が散見された。
- ・果実は、夏季の高温により日焼けが発生し、秋季の高温により着色が遅れた。

【スモモ】

- ・着果量は、満開期頃（3月下旬）の降雨および低温により少なかった。
- ・一部園地で4月に、ひょうによる傷果が生じた。
- ・着色期の高温により、特に、「ソルダム」で着色が遅れた。

【キウイフルーツ】

- ・「甘うい」は、着花量が平年並みであったが、春先の低温により一部園地で新梢の枯死が発生した。
- ・「ヘイワード」は、着花量が平年並みで、満開期（5月中旬）は平年より2日程度遅かった。
- ・開花期の天候は比較的良く、「甘うい」「ヘイワード」とも結実は良好だった。

【イチジク】

- ・3月下旬は気温が高く推移したものの、4月上旬は気温が低く推移したため、発芽期は前年並～やや遅かった。
- ・夏季の高温による着色不良、高温障害が発生したことに加え、樹勢低下による着果不良がみられた。

（花き）

【トルコギキョウ】

- ・秋出し作型は、夏季の高温により、生育は前進傾向となり、水不足のほ場ではボリュームに欠けるものが発生した。10月下旬以降の気温低下により、8月下旬以降定植分の収穫は遅延傾向であった。
- ・8月上旬の豪雨では、多くのほ場で浸水・冠水被害が発生し、一部ほ場では生育不良となった。
- ・チョウ目害虫、コナジラミ類の発生が多く、一部ほ場では被害が大きかった。

【バラ】

- ・出荷量は、品目転換による面積拡大により、増加した。6～10月にかけて、夏季の高温により樹勢が低下し、短茎が多く発生した。
- ・少雨や高温乾燥により、アザミウマ類、ハダニ類、コナジラミ類の発生が多かった。

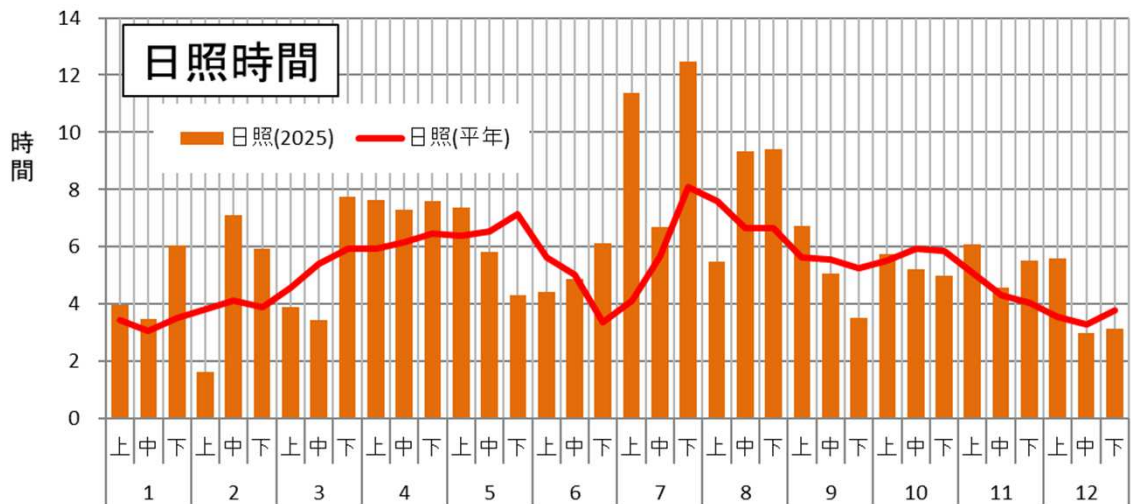
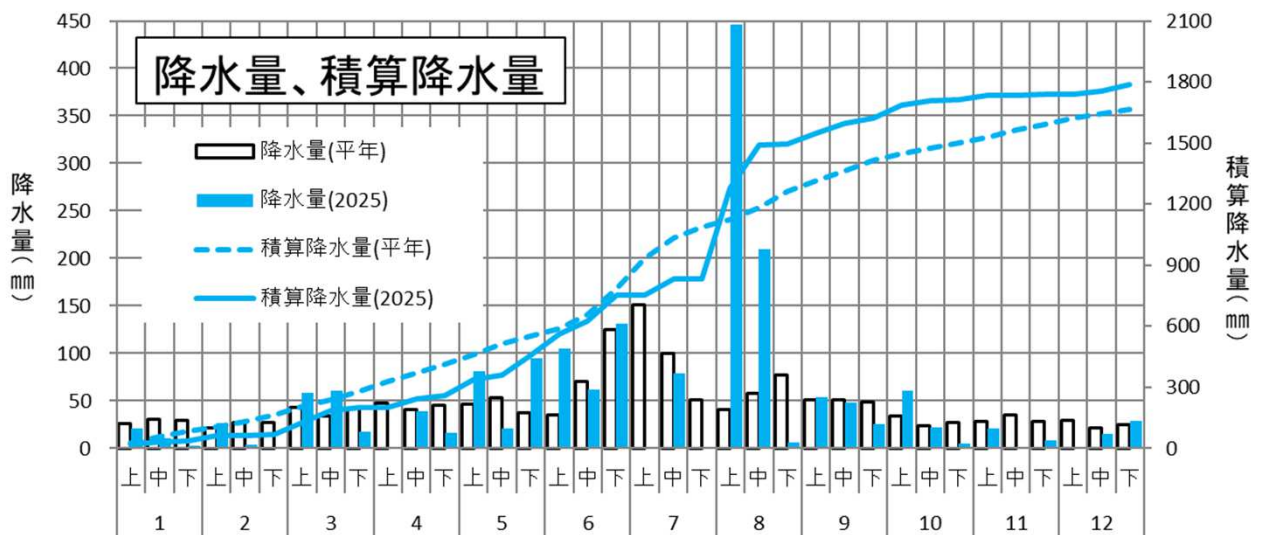
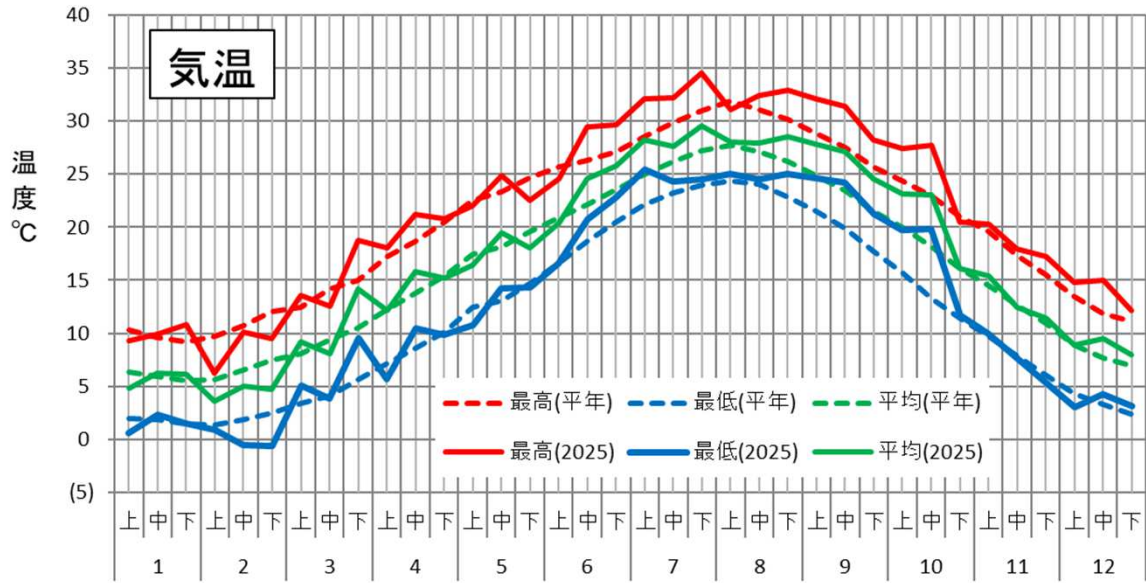
【ユーカリ】

- ・6～9月の高温乾燥に加え、8月上旬の大雨により、樹勢が低下し、一部で枯れ株が発生した。
- ・樹勢低下も影響し、角斑病をはじめとした病害被害が多かった。
- ・実付きのユーカリである「ポポラスベリー」は、着蕾する株が増加したことから、出荷量が昨年より75%増加した。

(4) 令和7年の気象状況

令和7年は、平均気温16.9℃(平年15.9)、年間降水量1,787mm(平年1,665)、日照時間2,156時間(平年1,870)でした。

特に、梅雨明けが平年より1カ月早い6月27日となり、さらに8月9～11日の豪雨(3日間で607mm)により、主に宗像市、福津市を中心に農作物や農地に甚大な被害を受けました



グラフは宗像アメダス(宗像市田熊)のデータをもとに作成

(5) 普及指導センターの所内体制

活動体制				プロジェクト班	推進活動班				窓 口							
				宗 像 地 域	情 報 推 進 班	後 継 者 育 成 推 進 班	経 営 改 善 支 援 推 進 班	生 産 環 境 推 進 班	6 次 産 業 化	農 業 D X ・ 男 女 共 同 参 画	普 及 情 報	土 壌 肥 料	農 業 機 械 ・ 病 害 虫 ・ 農 薬	環 境 保 全	鳥 獣 害	試 験 研 究
センター長			日高 達也													
地域振興課	地域振興課長			小賦 幸一			総括	総括								
	地域係	係長 (地域)	小山 太	推進員	○		○				○					
		庶務	事務主査	田中 祐子												
		農業経営	企画主査	宮崎 昌宏				○	○		○					
			技術主査	八波 博則	○				推進員							
			主任技師	門田日陽里				推進員	○							
			水田農業係	係長	井上 敬	○			○	推進員			○			
	水田農業	主任技師		小田 志穂	○	○										
		主任技師		上原 隆寛												
		主任技師		則行 正大	○			○								
園芸課	園芸課長			山村裕一郎	総括	総括		○	総括	○						
	野菜係	係長	宇都 俊介	○			○									
		野菜	主任技師	佐藤 辰哉	○		○									
			主任技師	有馬ひかる					○							
			技師	吉田 優磨		○							○			
	果樹花き係	係長 (花き)	波多江裕子	○			○					○				
		果樹	主任技師	半田 雅博	○			○						○		
		花き	主任技師	北山絵美子		推進員										
		果樹	主任技師	青木日向子			○								○	



北筑前普及指導センターへのアクセス



高速道路でお越しの方

・九州自動車道「古賀IC」から約7.5km

公共交通機関でお越しの方

・JR鹿児島本線「福間駅」下車徒歩25分

福岡県福岡農林事務所北筑前普及指導センター

所在地 〒811-3219

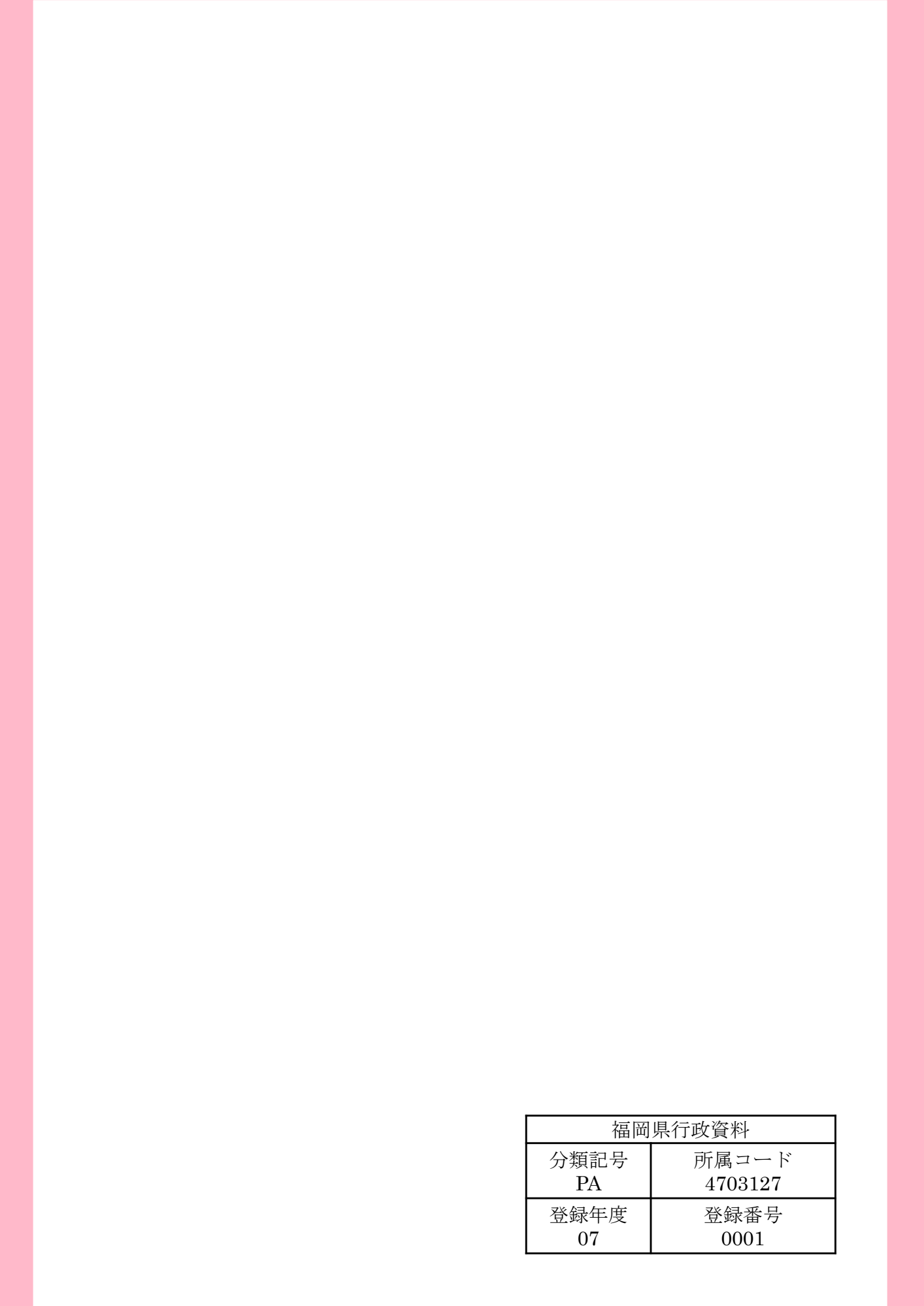
福岡県福津市西福間4丁目2番1号

電話 0940-43-8833

FAX 0940-43-8830

HPアドレス <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/soshiki/4704601/>

E-mail hokuchiku-dlc@pref.fukuoka.lg.jp



福岡県行政資料	
分類記号 PA	所属コード 4703127
登録年度 07	登録番号 0001